

1歳半から小6までの一貫能力開発

キッズスクール「キューブ」



2026年5月更新

無断転載禁止

<目次>

■知能（Core）とは	3
■子どもを伸ばすCUBE	5
■クラス紹介	6
● Core シンキング(未就園～)	7
● Core ラーニング(年少～)	12
● 知能プリントクラス(年中～)	20
■時間割・諸注意	22
■L U(レベルアップ)集中	24
■ギルフォードの知能構造論	25
● 知能(IQ)テスト	30
■MEMO	31

<知能（Core）とは>

■ 10歳までに身に付けたい能力

☐ 目を見て話ができる

話をしている人のことをしっかりと見ることができていますか？

話をしている途中で目をそらしたり、目が凝視できないのは要注意です。

年齢に関係なく、しっかりした目を育てましょう。

☐ じっと座ることができる

ある時期（年齢）になって、急に座れるようになるわけではありません。

低年齢の時期から座る習慣がある子と、そうでない子では座ることについてのストレスが変わってきます。姿勢が崩れずに座れると、人の話をきちんと聞いたり物事を正確に見ることができるのです。

学びの基本を早い時期に身につけましょう。

☐ あきらめない態度

子どもは、できないことがあると大人に助けを求めてきます。その時こそチャンスです。できないからといってすぐに手助けや助言をしてしまうのではなく、少しずつヒントを与え、失敗しながらでも自分で乗り越える体験を多くすることで粘り強さや、考える楽しさが身につくものです。

積み木教育では、自分で乗り越える体験をたくさんしていきます。「CUBE」で培う気持ちを生活の場でも発揮できるようご協力お願いします。

☐ 素直さ

素直に物事に取り組めることは、能力をつけていく上で重要な要素です。

大きな声での挨拶。「ハイ」という返事が自然にできる習慣を持つことを心がけて下さい。

■積み木教育の特徴

☆自ら考える力を養う事＝生きる力☆

資源のない日本を支えていくのは人であり、世界をリードしていく力は賢さ、思考力です。この賢さは幼児期であれば誰でも鍛えることができます。積み木という具体物に触れ、ものの違いに気づかせたり、先を見通さないとできあがらない課題や、目に見えない部分を考えたりしていきます。

また、難しい課題になったときに、考え方を変えたり、発想の転換をしたり、粘り強くあきらめない気持ちなど、生きていく上で大事な要素を培っていきます。考え方や頭の使い方は、訓練によって変わっていきます。子どもたちが社会に出る前に、足腰を鍛えるように、柔らかい頭を作りたいのです。子どもを伸ばして行くには、良質な刺激とあきらめない態度、素直さなど性格の部分が大きく影響を受けてきます。

積み木教育は「ギルフォードの知能構造論」をもとに知能を刺激すると同時に性格人格を育てていく教育です。

※ギルフォードの知能構造論については25～26ページをご覧ください。



<子どもを伸ばすCUBE>

■CUBEを利用する前に

【子どもを把握する】

現在、お子様がどのような状態にあるのかを把握することで、何をすべきかが見えてきます。普段の生活の中でも子供の様子で気になることがありましたら、是非CUBE講師にご相談下さい。また、定期開催の集中授業では参観ができ授業の合間に、なぜ今それが必要なのかなど解説や意見交換を含めて授業があります。手出し口出しせず、お子様がどのように指導者や諸問題に反応するのかを観察下さい。

【量の確保】

個々によって伸び率は違いますが、伸び率と受講コマ数は比例しています。Coreシンキング、Coreラーニングで2コマ以上受講する場合は、まず「易しいレベル」や「丁度いいレベル」を受講し、自信をつけることや苦手克服スピードを上げて行きます。そして「難しいレベル」を受講し、一つ上の思考体験を重ねることで、できないことができるようになるスピードを上げていきます。慣れてきたら、少しずつ増やしていきましょう。（どのレベルを受講するかはご相談下さい）

【集中授業で定着を】

月ごとに、土曜・日曜の2日間でLU(レベルアップ)集中授業を行っています。通常授業とは違い、能力の取りこぼした穴埋めと、限界への挑戦が確固たる思考力を促進します。また保護者の方も、参観することで子供の成長速度を把握し、子供を認めることで、子供たちの成長に大きく影響を与えます。強制ではありませんが、積極的に御活用下さい。

→26ページをご覧ください。

【長期継続】

積み木(能力開発)は、教え込んでテストの点数を上げる教育ではありません。自分で考え、自ら能力を手にとらせるのです。自分で築き上げた能力(Core)は一生忘れない力になるのです。短期間で結果が出るものではありません。大脳が完成するまでしっかりと続けて、能力を揺るぎないものにして下さい。

■各クラス紹介

Coreシンキング

自分のペースで （1歳半～）
平面・立体・空間を考える力

CUBE能力開発の基盤となるクラスです。年間カリキュラムではなく、個々にねらいをもって教材・課題を設定します。子どもにあわせて課題の難易度を調節するので、苦手分野をしっかりとできるようになるまで繰り返し行うことができます。子どもの得意分野を伸ばすと共に、不得意分野を改善していくことで「考える力」をバランスよくしっかりと積み上げることができるのです。

→7ページをご覧ください。

Coreラーニング

話を聞いて理解する力 （3歳～）

積み木の算数は、完全能力別クラスで行います。知能と違い、自分のペースではなく指導者のペースに合わせるという難しさがあります。見る・聞くの姿勢作り、数の分解・合成、X進法など、数の基礎力を身に付けていきます。授業では、色サイコロを使用しますので、色・長さが認識できる事がベースとなります。必ず知能教室と合わせて受講して下さい。

→12ページをご覧ください。

知能プリントクラス

文章による言葉の理解 （年中～）
なども含めた総合的な力

積み木だけでは道具(具体物)を使わない思考、概念(言葉)を使った思考を刺激するには不十分です。知能プリントは、そういった欠点をしっかりと補います。また、積み木で培った能力を定着させるのにも最適です。

→20ページをご覧ください。

Coreシンキング

(未就園～)

☆考える事が好きになって欲しい☆

知能を伸ばして行くためには、まず「目の動き」に着目していかなければなりません。

目に入ってくる情報の量を増やすためにもじっと見る訓練が不可欠です。

実際に手を動かして取り組むことにより、よく見る（長さ・色を見比べる）ことをしなければなりません。

よく見るためにはじっと座っていられなければなりません。座れない子はじっと見られない、見る事ができなければ話を聞く事が難しくなってきます。

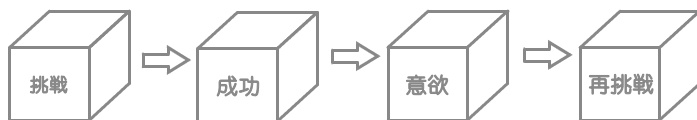
物事には必ず原因と結果があります。結果は目に見えますが原因は目に見えません。しかし、積み木では思考の過程が目に見えるので、原因を修正する事ができます。

また、ここでは課題の完成が目的ではなく思考の過程が重要になります。

どうやったらうまくいくのか・なぜできないのか、子どもたちは頭をぶつけながら試行錯誤していきます。そのような課程を経て得た成功体験の積み重ねは自分のものとなります。

出来る→褒められる→意欲がでる→またやりたい→少し難しい事に挑戦する

といった好循環が作られ、自学自習の姿勢や粘り強さ、最後まで諦めない気持ちを育てることができます。できる自信から考えることが好きになると全ての習い事においてその力が発揮されます。

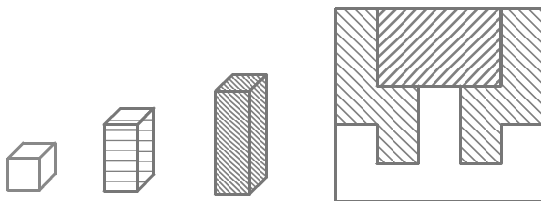


Coreシンキングは週に2コマ以上受講できます。
図形のイメージ力は具体物に触れた分だけ付いていきます。
しっかり、量も確保するようにしましょう。

●色サイコロ

立方体や直方体を様々な色に塗り分けたカラフルな教材です。子どもにとって親しみやすく、1歳過ぎから扱える教材です。又、数遊び（算数）はこの教材を使用して行います。物事の理解力を養成していきます。見本と同じモノを作るためには、対象物をしっかりと見なくてはなりません。

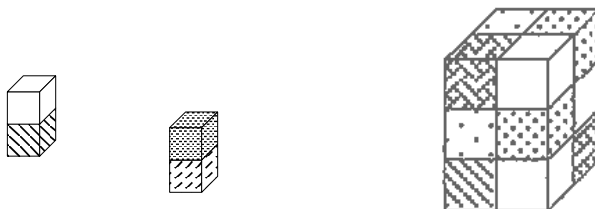
しっかり目を使って情報（同じ色・同じ大きさ）を整理することがとても重要になってきます。この「きちんと同じがわかる」・「違うがわかる」ということは幼児にとってはとても重要な力です。しっかりとした評価力を育てていきます。



●貼りサイコロ

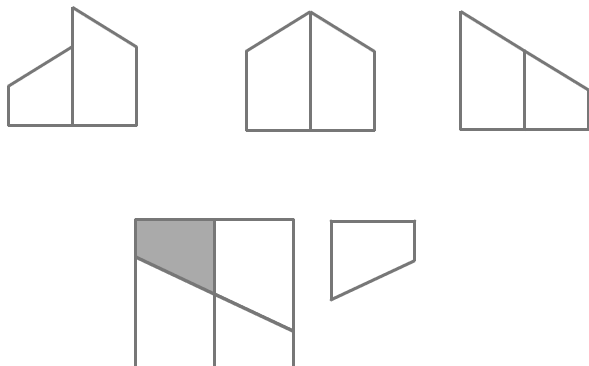
貼りサイコロは2色を組合せた教材です。（全10種類）

紛らわしいものの中から、他の色に惑わされる事なく集められたり、2つの色の組合せを考えながら見本と同じものを作ることにより、観察力・比較判断力、さらには見通しの力を養います。



● 4 枚型

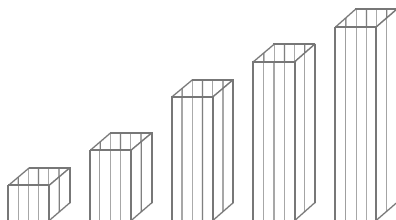
大小2種類の大きさの積み木だけを使って箱に詰めたり冊子に寄せたりします。
積み木を回転させたり、ひっくり返したりすることで形の向きをそろえて箱に詰めます。
積み木を回転させたり、ひっくり返すことは思考・発想の転換につながります。



■ に入れるためにはどうしたらいいかな？

● 階段棒

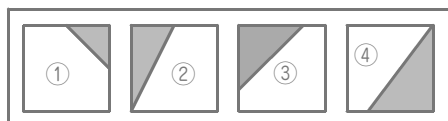
1 から順番に長くなる1～10までの長さの積み木を10種類（規則的に並べると階段状になるので）使います。自然に子どもは長い・短いという長さの感覚が身につきます。また、箱に詰める際に一方向的なモノの考えではなく、縦がダメなら横に入れてみる等、柔軟に思考できることを目的とします。さらに、体系的に捉える、規則性に気づかせるという視点も芽生えます。



●3 2枚型

三角形・四角形・台形などの基本的な形を扱って図形の分解・合成を経験しながら図形を捉える基礎能力（広さ・角度・辺を見分ける能力）を定着させていきます。覚えるのではなく、子どもたち自身が図形を感じる事ができるようになるので、忘れる事もなく、楽しく図形の認識が深まります。

最終的には角度・面積を考えながら課題を解決していきます。



■のところには、
どの形がはいるかな？
線で結びましょう。

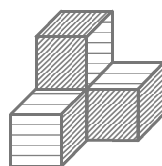
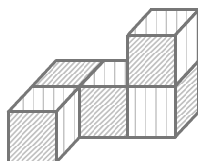


◎答えは12ページを
ご覧下さい。

●大サイコロ

赤と黄色の2色がランダムに配置されている立方体のサイコロを使って箱の中に隙間なく入れ、見本と同じ模様を作っていきます。又、裏返して出したときに見本と同じ模様が出るように、見えない部分をイメージしながら模様作りもしていきます。

上下左右さまざまな角度からモノを見たり、見えない部分を考えたりと、イメージ力を養います。

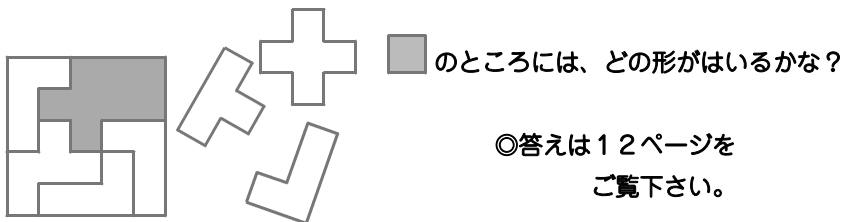


●凸凹（デコボコ）

バッテンやＴ字のような特殊な形を隙間なく箱に詰めていきます。たくさん触れる事により、頭の中でいろいろな形を想像する事ができるようになります。

空いている空間を見て、予想を立てたり凸凹の形をイメージできるようにしていきます。また、しっかりと見通しをたてて、できない課題に対しての粘り強さなど気持ちを鍛えることができるのも、この教材の特徴のひとつです。

回転させた形・ひっくり返した形・鏡にうつった形などを想像し、空間把握能力が育成され２次元（平面）から３次元（立体）へと展開していきます。

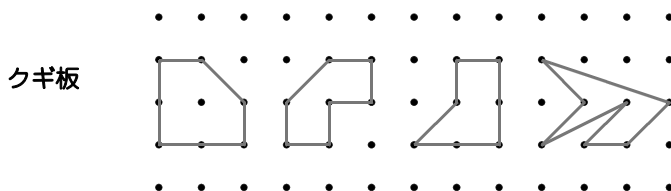


●クギ板

輪ゴムを使うので、幼児期に育てたい指先の器用さを、育てていきます。

具体物の積み木と違い、ひっぱったりへこませたりする事で形が変化するのがこの教材の特徴です。

一方を引っ張ることで他方がへこんで見えるなど、先の変化を見通して作ったり線対称をイメージしたり、面積の仕組みなども体験していきます。



Coreラーニング

(年少～)

話を聞ける子、問いかけに即応できる子を目指しています。

Coreラーニングでは算数を題材に授業を進めていきますが、計算ができたり、公式を覚えたりすることが狙いではありません。

まずは、課題の正否だけで点数をつけるのではなく、“見ていたら1点”“聞いていたら1点”と評価します。何が大事であるかを子供に伝えていくのです。

我々の情報や知識は視覚・聴覚から入ってきます。大人でも聞き漏らさずにしっかり話を聞くことは大変な労力を使います。幼児の場合は連続して聞く、見る、が難しいために、物事の吸収率に個人差が大きく現れます。

子供は、ある日突然話が聴けるようになるわけではなく、訓練をすることで耳から脳への伝達量が変わってくるのです。



クラス編制は完全能力別のクラス分けで授業を進めていくので、年少と年長、年長と1年生といった他学年が同じクラスになることがあります。

できるようになったら、次のクラスへとステップアップしていきます。

マニュアルを使って課題を与えるのではなく、そのときの子どもの表情や、理解度を見極めて状況にあった課題をその場で考えて、子ども達に出題していきます。教え込んで問題を解けるようにするのではなく、子どもが自ら解き方を見つけられるように、課題を調節していきます。

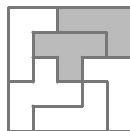
教具は色サイコロを使って授業をおこなうので、数量が具体的に見え、思考の過程を整理して幼児にもわかりやすく伝えることができます。Coreシンキングで図形の能力が身についていくとCoreラーニングでも数と図形が一致するようになり相乗効果があります。

必ず Core シンキングと Core ラーニングはセットで受講しましょう

～32枚型の答え～

- ①ーい ②ーえ
- ③ーあ ④ーう

～凸凹の答え～



■Coreラーニングのクラスレベル

算数という分野はピラミッドになっています。土台が一つ欠けていると上まで積み上がらないようになっていきます。ですから、授業は子供のでき具合を診断しながら、その子にあった問題をその場で作って出題していきます。分からない時は答えを教えるのではなく、問題の切り口を変えたり、レベルを上げ下げしながら一人一人が深く考えていけるような授業展開をしています。考え方が解るまで出題していきます。

しかし、子供のレベルに合わせて出題するので、つまづく箇所があると授業の進度が停滞することもあります。

停滞したときは、集中授業を利用したり、平常授業のコマ数を増やすなど、お子様の状態を見ながら柔軟に対応していきましょう。



	幼児	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1対1対応							
数の拡張							
何色何個							
転換							
交換							
倍数							
分数							
X進法							
比							
平均							
面積							
速さ							
濃度							
特殊算							
文章題							
難関入試問題							

学年は目安です。受講コマ数によっても進捗度は異なります。

●数の拡張

図形の力を利用して、数の本質をつかませていきます。

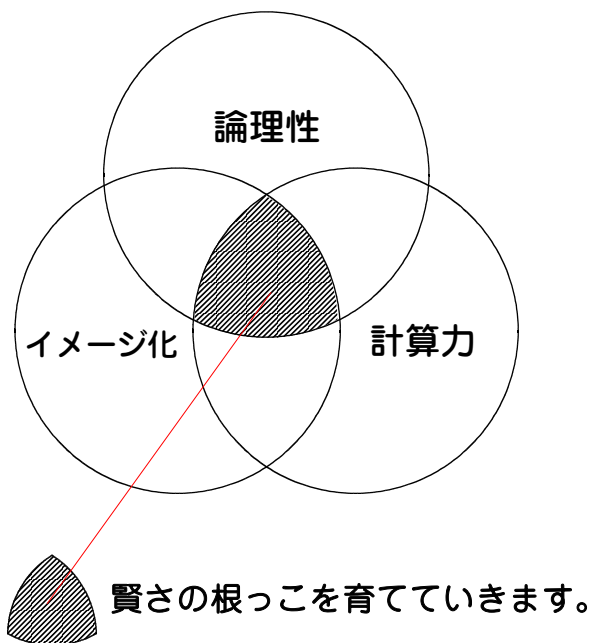
整数だけではなく、小数・分数も積み木で表現し、「位（くらい）」も具体物で本質を掴むので、3進法、4進法といった数学的内容でも低学年で理解することができます。

算数は本質を理解せずに、公式や手順を丸暗記すれば答えが出てしまいます。

しかし、これは算数が楽しくなくなる原因の一つです。

子どもたちには、是非、本質をしっかり捉えながら算数を楽しんでほしいと願っています。

●算数ができる基本要素

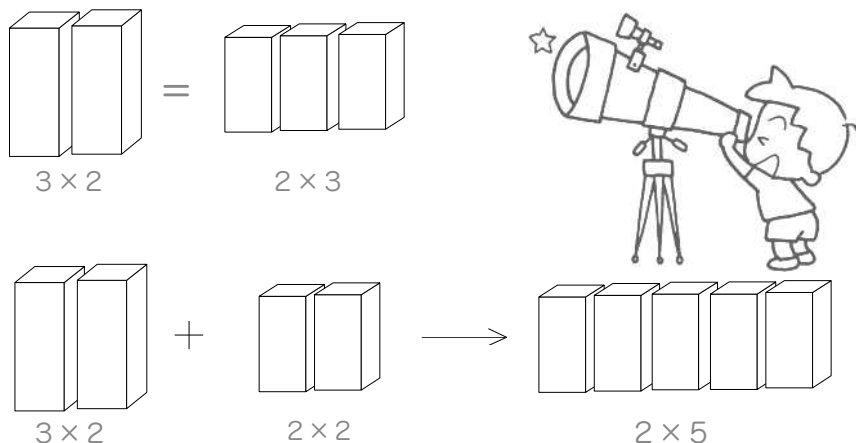


●倍数

「6」を下のように図形として捉えると、3が2個だから3の2倍、または反対に2の3倍ということも分かります。また、2と3の最小公倍数が6・約数に2と3をもつ事も理解できます。

もちろん、かけ算のひっくり返しても答えは同じ（ $3 \times 2 = 2 \times 3$ ）というのは数を図形として処理する積み木の算数の特徴です。

これは幼児期に培ってきた数の分解・合成をより深く、頭の中でイメージし積み木を操作させていきます。仕組みが分かっているので応用が利きます。



例題： $A + A \times 2 + 5 \times A = ? \times ?$

答え $A \times 8$

かけ算の意味も積み木だと深く理解できるのです。

●式の意味

足し算・引き算・かけ算・割り算の計算が解けるからといって、式の意味を理解しているとは限りません。計算ができて、式の意味を捉えることができてはじめて理解したと言えるのです。

しっかりと意味を理解していないと、文字式や文章題など応用問題はできません。

式の意味を理解することができれば、1年生でも解くことができます。

① $A + B = 60$
 $C + D = 60$
 $A + B + C \times 2 = 100$
 $D = ?$

$A + B =$ 

$C + D =$ 

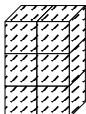
$A + B + C \times 2 =$  と表せる

答え 40

② $A \times 3 = B$
 $B \times 2 = C$
 $C - A = 50$ $B = ?$

$A =$ 

$B =$ 

$C =$  と表せる

答え 30

積み木で思考できると、文字式も具体的に理解できるのです。

●交換

比の問題への足がかりとなるように、基本的な力をつけていきます。

A 1 個と B 3 個の値段が同じ。B 1 個と C 2 個の値段が同じ。

A 1 個が 60 円するとき、C 1 個の値段はいくらか？

つまり個数の比 $A : B = 1 : 3 \cdots \textcircled{1}$

$B : C = 1 : 2 \cdots \textcircled{2}$

この関係を積み木を使って表すと、

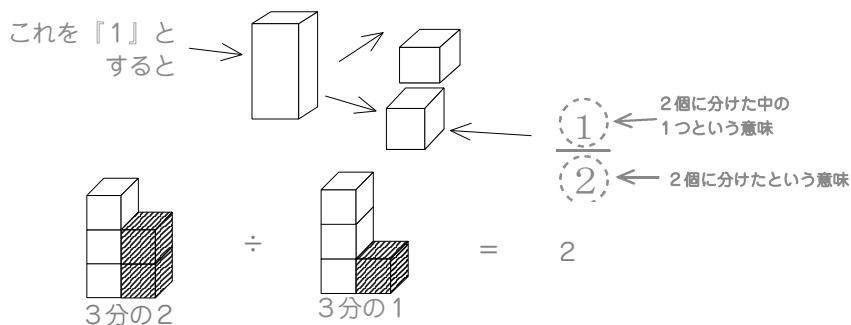


答え 10

積み木で実際に動かすとわかりやすいのです。

●分数

分数も積み木で表してみると子どもには理解しやすいです。とくに小学生で疑問に思う分数のわり算も積み木だからわかりやすいのです。



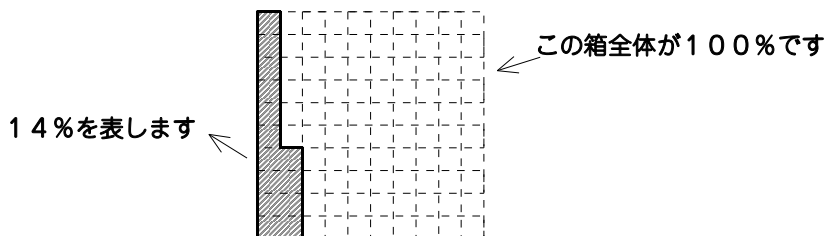
$\frac{2}{3}$ の中に $\frac{1}{3}$ が何回入っているか？ が分かれば、2 回入っています。

答え 2

●百分率

1 の色サイコロが 100 個入る箱を 100% として利用すると、10 個分は何%になるのか？また、大箱 2 箱を 100% とすると、10 個分は何%か？

それぞれ、10%・5%です。これは割合で考える上での基礎になるものです。



例題：14%と5%を1：2の割合で混ぜると何%になりますか？

答え 8%

積み木で説明するととてもわかりやすいのです。

●特殊算

鶴亀算、過不足算、方陣算、植木算、流水算etc...

10円玉、50円玉、100円玉、全部で100枚、合計金額は8100円

10円玉と50円玉の枚数の比が1：2のときそれぞれの枚数を求めなさい。

答え 10円玉・・・10枚 50円玉・・・20枚 100円玉・・・70枚

以上のような算数の分野も積み木の動かし方やイメージ操作の訓練により
いろいろなものへ応用が利く思考法を体得していきます。

算数プリント

※ Core ラーニング補助教材（無料。再配布可）

☆計算力を鍛える☆

算数ができるようになるためには、計算力は欠かせません。計算力は、学年が上がった
ら身についたり、ある時期になって突然できるようなるわけではありません。

計算力をつけるためにもプリント教材は大切です。無料配布の算数プリントだけでなく、
計算ドリルなどを各自で購入してご家庭でおこなって下さい。

繰り上がりや繰り下がりのある計算、足し算や引き算の筆算など苦手な分野がありまし
たら、ご相談下さい。単なる計算ミスでも間違えた理由をしっかりとさがしましょう。

計算力は、プリントをやった量と比例して力がついていきます。

下記チェックポイントを参考にしてお子様の計算力を確認してあげましょう。

C U B E の計算力 チェックポイント

※計算の基本は、小学4年生までに身につけましょう。

- ・ 幼児期…6までの数が「瞬時に」認識できる。
指を使わず、頭の中で数を増やせる。減らせる。
- ・ 1年生…繰り上がりのある足し算ができる。
繰り下がりのない引き算ができる。
- ・ 2年生…繰り下がりのある引き算ができる。（筆算を含む）
かけ算九九が間違わずにできる。
- ・ 3年生… $\bigcirc \div 4 \cdot \bigcirc \div 5 \cdot \bigcirc \div 10$ の計算ができる。
- ・ 4年生…分数・小数の四則計算ができる。

知能プリントクラス

☆抽象的思考を鍛える☆

課題は、A.図形を使ったもの

B.記号、数字を扱ったもの

C.言葉を題材にしたもの

これら3種類のバランスを考えた課題を

毎月5課題（1課題平均5ページ）行います。

プリントはページが進むにつれ、徐々に難しくなっていくように構成されていますので、最適な刺激ができます。

問題

上の言葉と関係があるものを下から探して貼りましょう。

◎概念を転換して拡散思考する

どんな意味？ CMT (C) ③

① な く

② ひ く

③ か う

④ さ す

幼児用

(年中～)

※受講の際は下記をご用意ください。

- ☐ハサミ ☐のり（スティックのり）
- ☐鉛筆2～3本（2B以上の書きやすい物）
- ☐消しゴム
- ☐プリント（A4サイズ）を入れるケース
- ※鉛筆削りは、幼稚園にあります。

問題

○の中に同じ文字を入れて言葉ができるものを2つのグループに分けなさい。

◎記号を分類して集中思考する

共通文字 小学出題 NSC (B) ⑥ 氏名

○の中に同じ字を入れて言葉ができるものをグループとして、3つずつ、3つのグループに分けなさい。
黒口には漢字の番号を、白口には共通な文字を書きなさい。

①

① ○ み	④ ○ ら	⑦ ○ せ
② ○ り	⑤ ○ がね	⑧ ○ ざし
③ ○ うだい	⑥ ○ など	⑨ ○ だか

②

① ○ し	④ ○ ん	⑦ ○ うちよう
② ○ ぐ	⑤ ○ さみ	⑧ ○ どん
③ ○ みがき	⑥ ○ うりん	⑨ ○ だか

③

① ○ し	④ ○ ょう	⑦ ○ やわん
② ○ ら	⑤ ○ ば	⑧ ○ いしゃ
③ ○ ず	⑥ ○ すき	⑨ ○ うだん

④

① ○ み	④ ○ しん	⑦ ○ りもの
② ○ かん	⑤ ○ すび	⑧ ○ んじゃ
③ ○ り	⑥ ○ はら	⑨ ○ まず

⑤

① ○ ろ	④ ○ わり	⑦ ○ はん
② ○ ま	⑤ ○ のぐ	⑧ ○ いば
③ ○ き	⑥ ○ がわ	⑨ ○ れよん

小学生用

また、小学生になると学期ごとに「まとめテスト」があります。
今までやった事がしっかりと定着・理解しているのか、お子様の弱点・苦手な部分は
どのようなところなのかを把握することができます。

◎図形を単位で評価及び記憶する

にっぽん 小中高用 地図帳 国名 日本

日本地図をよく見て、次の地図の都府県名を答えなさい。

① 北海道	② 青森県	③ 秋田県	④ 岩手県	⑤ 宮城県	⑥ 福島県	⑦ 茨城県	⑧ 栃木県	⑨ 群馬県	⑩ 埼玉県	⑪ 千葉県	⑫ 東京都	⑬ 神奈川県	⑭ 新潟県	⑮ 富山県	⑯ 石川県	⑰ 福井県	⑱ 山梨県	⑲ 長野県	⑳ 岐阜県	㉑ 静岡県	㉒ 愛知県	㉓ 三重県	㉔ 滋賀県	㉕ 京都府	㉖ 大阪府	㉗ 兵庫県	㉘ 奈良県	㉙ 和歌山県	㉚ 鳥取県	㉛ 徳島県	㉜ 香川県	㉝ 高松市	㉞ 愛媛県	㉟ 高知県	㊱ 福岡県	㊲ 佐賀県	㊳ 長崎県	㊴ 熊本県	㊵ 大分県	㊶ 宮崎県	㊷ 鹿児島県	㊸ 沖縄県
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------

◎概念を見通して集中思考する

りくつくり 小中高用 NM1 (B) 7 国名 日本

左の空いている口に適当な言葉を書き入れて下さい。

- ① つばめは鳥です。 つばめも卵を産みます。
- ② 100点をとったらお褒めがもらえます。 みつこは勉強をもらえませんでした。
- ③ 1年生だけが背い帽子をかぶらなければいけません。 みつおは、背い帽子をかぶっています。
- ④ よしおとあきは同じ年です。 よしおもそうです。
- ⑤ 21 日は寝朝を忘れず。 よしおはトイレの掃除をします。
- ⑥ あと2年たてば、みつおは中学生です。 やすしは、あと3年たてば中学生です。
- ⑦ 私が、あと60円多くお金をもらってれば、Aが買えます。 私は、まだ今でも買えます。

◎図形を転換して認知する

かさなり 小中高用 CFT (B) 6 国名 日本

次の3枚のカードを使って下のような形を作るとき、重なった部分に色を塗りなさい。重なった部分には1枚ずつ塗る。

① ② ③

④ ⑤ ⑥

⑦ ⑧ ⑨

⑩ ⑪ ⑫

◎図形を単位で評価する

世界地図 小中高用 EFU (B) 7 国名 日本

(ヨーロッパ)

ヨーロッパにある色々な国の名前を答えなさい。(国名はカタカナで。)

① ノルウェー	② フィンランド	③ スウェーデン	④ アイスランド	⑤ エストニア	⑥ ラトビア	⑦ リトニア	⑧ ポーランド	⑨ オーストリア	⑩ アイルランド	⑪ アイスランド	⑫ ユーゴスラビア	⑬ スロバキア	⑭ ハンガリー	⑮ チェコ	⑯ ポーランド	⑰ スロベニア	⑱ アルバニア	⑲ ユーゴスラビア	⑳ ブルガリア	㉑ マケドニア	㉒ ヘルツェゴビナ	㉓ アルバニア	㉔ ギリシャ	㉕ ルーマニア
---------	----------	----------	----------	---------	--------	--------	---------	----------	----------	----------	-----------	---------	---------	-------	---------	---------	---------	-----------	---------	---------	-----------	---------	--------	---------

■時間割

Coreシンキング					Coreラーニング				
		月	火		水		木		金
小梅 クラス のみ		8:50～9:30	--	Coreシンキング 【小梅(週5)】	--	Coreシンキング 【小梅(週5)】	--	--	--
		9:35～10:15	--	Coreシンキング 【小梅(2便)】	--	Coreシンキング 【小梅(2便)】	--	--	--
		10:20～11:00	--	Coreシンキング 【小梅(水金)のみ】	--	Coreシンキング 【小梅(火木)のみ】	--	--	--
幼児 クラス	①	14:05～14:45 (☆11:35～12:15)	Core シンキング	Coreラーニング D	国語 【年長】	Core シンキング	Coreラーニング C	Coreラーニング B	
	②	14:55～15:35 (☆12:25～13:05)	Core シンキング	Core シンキング	--	Coreラーニング A	Core シンキング	Core シンキング	
[課外バス 15:40出発予定 ☆午前保育時は課外後に昼食をとり14:00に出発予定]									
小学生 クラス	③	15:45～16:30	--	Core シンキング	知ブリ 【幼児】	国語 【小学生】	Core シンキング	Core シンキング	Core シンキング
	④	16:40～17:25	--	Core シンキング	知ブリ 【小学生】 (60分)	--	Core シンキング	Core シンキング	Coreラーニング 1～2年生
	⑤	17:35～18:20	--	Core シンキング	--	--	Core シンキング	Core シンキング	Coreラーニング 1～2年生
	⑥	18:25～19:10	--	--	--	--	--	--	Coreラーニング 3～6年生

☆は午前保育時の時間です。午前保育時も③コマ目以降は通常通りです。

- ・ Coreラーニングを受講する場合は必ずCoreシンキングもセットで受講して下さい。
- ・ Coreラーニングは完全能力別クラスになります。Aから始まり、アルファベットが難易度順になっています。曜日変更となる際はこちらからご連絡致します。
- ・ Coreシンキングは曜日に限らず、複数コマの受講が可能です。

定員となったコマや、3人に満たないコマについては、受講時間の変更をお願いいたしますので予めご了承下さい。

■入室にあたっての諸注意（守っていただきたい事）

【クラス変更、退会・休会、年度更新について】

- ・ Coreラーニングは、完全能力別クラスになっていますので年度の途中でクラスの移動や曜日の変更をご提案することがあります。他の習い事との調整もあるとは思いますが、この時期にしかできない大切なお子様の能力開発のため、ご協力をお願いしております。
- ・ Coreシンキングの年度途中での曜日変更は基本的にお断りしています。やむを得ない事情の場合は担当講師までご相談下さい。
- ・ 中途退会・休会される場合は、『携帯掲示板 (<https://umezono.net/bulletin-board>) → 課外教室お申し込み→キッズスクールCUBE』より必要事項を入力して送信下さい。
- ・ 年度更新は自動更新となります。変更がある場合は必ずお知らせ下さい。

【月謝について】

CUBEに入室した際の入室料は、10,000円（別途消費税）です。

月謝は、週1コマ5,000円（別途消費税）です。

（知能プリント教室のみ週1コマ6,000円（別途消費税）となります。）

受講する曜日で月単位の授業コマ数は変わりますが、年間授業回数（40回）は変わりません。あらかじめご了承ください。

【長期休暇集中授業について】

・夏休み（期間中の4日間または5日間）・春休み（年間授業回数の不足分がある場合のみ）の長期休暇を利用して授業を行います。詳細は後日別紙でお知らせ致します。
通常の授業と異なる曜日になることがありますので、あらかじめご了解下さい。

【欠席連絡・振替券の利用について】

・授業を欠席する時は、「パステルApps」の連絡事項よりお知らせ下さい。

欠席した分の振替授業、振替券の発行は致しません。

・振替券は幼稚園都合での休講になった時に発行されます。忌引き・出席停止以外の都合でお休みされた場合はいかなる理由でも発行できません。

・振替券は通常時の知能教室の追加として、また定期開催の集中授業、算数参観で利用できます。通常授業で振替券を利用する場合は、前日まで（月曜日に受講希望の場合は金曜日まで）にパステルよりご連絡下さい。普段と異なる曜日や時間帯で受講できますが、コマによっては人数の都合でお断りする場合がありますのでご了承ください。

集中授業やラーニング参観で利用する場合は、当日の精算時に1枚1コマ分としてご利用下さい。

・有効期限は発行日より1年間です。他人に譲渡することはできません。また、紛失した際に再発行はできません。

・CUBE千葉駅教室の特別授業などでは利用できない場合があります。詳細は各講習の案内をご覧ください。

【年間予定について】

CUBEの年間予定は携帯掲示板のスケジュールよりご覧になれます。

<https://umezono.net/bulletin-board/schedule>

※CUBEでは年間回数を40回と規定していますが、幼稚園行事により月ごとの回数が異なる場合がありますので、必ずスケジュールをご確認下さい。

■LU(レベルアップ)集中について

※毎月1回、土日を利用してLU（レベルアップ）集中授業があります。

通常授業とは違いお子様の様子を参観することができます。

参観することで子供の成長速度を把握し、しっかりとした子育ての指針にして下さい。

◎Coreラーニングクラスでは、理解の定着クラス、基礎固めクラス、次のステップへのチャレンジクラスとなるように、適正クラスの1つ前から、3コマを目標に連続受講するのがおすすめです。年長以上は小学生クラスも合わせて限界まで挑戦しましょう。

◎Coreシンキングクラスでは柔軟な思考、自学自習の訓練など、学習上必要な能力を養いましょう。

※1コマ単位の有料授業です。

Coreシンキング・Coreラーニングを併用して学年を下のクラスから上のクラスまで自由に受講できます。お子様が伸びていくように受講して下さい。

5コマ連続、2日連続を目標に、受講することをお勧め致します。

時間（一例）	算数クラス	知能クラス
9:00～9:40	未就園～	全 学 年 対 象
9:50～10:30	年少～年中	
10:40～11:20	年少～年長	
お昼休み		
13:00～13:40	年長～1年	
13:50～14:30	年長～2年	
14:40～15:20	1年～3年	
15:30～16:10	2年～4年	
16:20～17:00	4年～6年	

※集中授業の詳しい内容・時間割等はスケジュールにてご確認ください。

（上記の時間・対象学年はあくまで目安です。変更となる場合もありますのでご了承下さい。）

ギルフォードの知能構造論

大脳生理学の発達とともに大脳の成長が顕著な幼児期に、脳の機能を刺激することによって、知能がどんどん伸びることが実証されてきました。

南カリフォルニア大学の心理学者ギルフォード博士により知能には3つの側面があるという「知能構造論」が発表されています。

『積み木』はギルフォード博士の「知能構造論」を基にして、

(1) 図形

(2) 記号（文字や数）

(3) 概念（言葉や文章）

の3領域にわたって知能を刺激し、理解力・記憶力・創造力・論理的思考力・比較判断力の各能力を高め、遊びの中から課題に対し柔軟かつ論理的に解決することができる、子ども達の『考える力』を養うことを目的とした知育教材です。

人間の知能を領域、所産、働きという3つの側面から捉えて、この3つの側面の要素を1つずつ組み合わせたものを知能因子と呼びます。

「領域」の5つの要素、「働き」の5つの要素、「所産」の6つの要素を組み合わせると $5 \times 5 \times 6 = 150$ もの「知能因子」があることになります。（下図参照）

領域：CONTENTS：

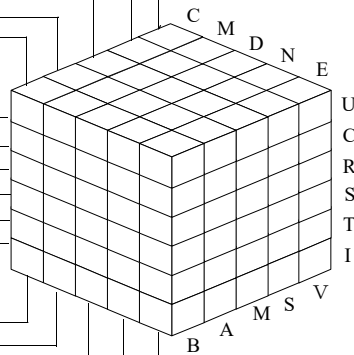
図形	Visual
記号	Symbolic
概念	Semantic
聴覚	Auditory
行動	Behavioral

所産：PRODUCTS：

単位	Units
分類	Classes
関係	Relations
体系	Systems
転換	Transformations
見通し	Implications

働き：OPERATION：

認知	Cognition
記憶	Memory
拡散思考	Divergent production
集中思考	Convergent production
評価	Evaluation



知能構造モデル（Structure of Intellect model）

領域

領域は、扱う分野により、5つに分けられます。

- ①図形（視覚的に捉えられる形や空間）
- ②記号（文字や数字やマークなど）
- ③概念（意味をもった絵や言葉など）
- ④聴覚（音声や音楽などの音）
- ⑤行動（表情や動作や語調などによる人間の感情、意志、心理状態）

働き

働きは、何をするのかにより、5つに分けられます。

- ①認知（知る、分かる、理解する）
- ②記憶（覚える、覚えたことを再生する）
- ③拡散思考（どんどん思いつく、柔軟に考える、独創的に考える）
- ④集中思考（筋道を立てて考える、論理的に組み立てる）
- ⑤評価（比較・判断する、選別する）

所産

所産は、どのような捉え方をするかで、6つに分けられます。

- ①単位（あるひとつのもの）
- ②分類（同類、同質のなかま）
- ③関係（2つのものの関係）
- ④体系（3つ以上のものの間に成立するもの）
- ⑤転換（変形、置き換え、切り換え）
- ⑥見通し（洞察、推理）

■知能(I Q)テスト

小学生を対象に、年に1回、知能指数(I Q)と知能構造プロフィールをはかります。

従来の偏った知能検査ではなく、英研式知能構造診断テストによる、多角的でよりきめ細やかな知能検査です。(有料)

心理学者J.Pギルフォードによる知能構造論に基づいた知能の働きを幅広く診断します。

お子様の能力がどのような状態にあるのか、弱点はどこにあるのかなど、具体的な数値として把握することができます。

知能診断後は、指導者が面接をし、一人一人の特徴や伸ばすべきポイントをお伝えします。

●知能構造診断結果表

氏名		*****			性別	男		
生年月日		**年**月**日			暦年齢	7歳 4ヶ月		
検査日		平成**年**月**日						
知能年齢		**歳						
働き	領域	番号	問題別得点			合計点	粗点	知能因子
			図形	記号	概念	平均点	修正値	指数
認知	図形	[1]	4	16		40	133	182
	記号	[2]	4	12		13.3	49	
	概念	[3]	4		12			
記憶	図形	[4]	3	18		51	170	219
	記号	[5]	3	9		17	49	
	概念	[6]	4		24			
拡散思考	図形	[7]	8	16		42	140	189
	記号	[8]	7	14		14	49	
	概念	[9]	6		12			
集中思考	図形	[10]	1	6		33	110	159
	記号	[11]	5	15		11	49	
	概念	[12]	2		12			
評価	図形	[13]	19	19		34	113	162
	記号	[14]	3	9		11.3	49	
	概念	[15]	2		6			
合計点			75	59	66	総合得点		
平均点			15	11.8	13.2	200		
粗点			150	118	132	知能年齢 160		
修正値			49	49	49	生活年齢 88		
知能因子指数			199	167	181	知能指数 182		
			領域別指数					

■MEMO



賢さは未来を創る



学校法人梅園学園
梅 乃 園 幼 稚 園
千葉市中央区矢作町939-6
TEL 043-222-2003

<https://www.umezono.net>